横浜市立 竹山小学校　　令和4年度

# 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

## 学校教育目標

「知恵だせ　汗だせ　明るい子」
〇自分の課題をもち、その解決に向けて取り組み、学び続ける力を育てます。（知）
〇自分や友達のよさを認め合い、自己肯定感や自己有用感を育てます。（徳）
〇自分の生活を見つめ、心身の健康増進する力を育てます。（体）
〇地域の人やものを大切にし、共に生きていく力を育てます。（公）
〇多様性を尊重し、社会と進んでかかわる力を育てます。（開）

| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 | 具体化した資質・能力 |
|---|---|
| 〈自分づくりに関する能力〉<br>〈問題発見・解決能力〉 | ・主体性・積極性　・他者を理解する態度・自己を理解する姿勢<br>・解決策を実行する力　・問題の課程を振り返る力 |

## 中期取組目標

〇他者との関わりを通して、自己有用感を高める学びを充実させます。
・1年目は特に学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進します。
・2年目は他者と学ぶ楽しさを実感し、主体的に学ぶ力を育てます。
・3年目は豊かな学習体験を繰り返すことで、自己有用感を高めることができるようにします。

〇竹山の「まち」や「人」との活動を通してつながりを意識し、竹山の「まち」を愛する心を育てます。

## 学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 授業改善<br>担当　重点研推進委員会 | ①「自ら進んで学ぶ子を目指して～人と関わり合い、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり～」のテーマで授業研究を進め、学び合うことのよさや楽しさが実感できる授業改善を図る。<br>②基礎・基本の定着を図るために、授業のユニバーサルデザイン化を図る。 |

### 学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる児童生徒の実態
　令和3年度全国学習状況調査によると、
【国語】
全体的な正答率は、全国、神奈川県の平均と比べて下回っています。
文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する設問、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける設問、漢字を文の中で正しく使う項目では、平均を大きく下回っています。

【算数】
全体的な正答率は、全国、神奈川県の平均と比べて下回っています。
1つの情報を確実に読み取ることは、得意としていますが、複数の要素を組み合わせた問いや公式を確実に理解して活用することは、苦手です。

〇自己肯定感についても、全国や県と比べてかなり低くなっています。

（2）これまでの学校の取組状況

　情報を正確に読み取り、読み取ったことを他の情報と照らし合わせることができる力を身に付けさせることや、漢字や言葉の意味を理解して一般化することなど、確実な言語理解ができるよう授業や朝学習で指導してきました。
　基本的な公式を確実に理解し、変化のある（応用）問題にも、基本を当てはめることができるように指導してきました。
子どもたち一人ひとりのよさを認め、家庭と連携して成長につなげていき、また、失敗をしても次につながるように、挑戦することで自信がつくように、様々な体験の機会を設けてきました。

### 今年度の目標

人との関りを通して、学ぶ楽しさを実感する授業づくり

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | ・講師を呼んで、学校で講演会を行う。「人と関わり合い、学ぶ楽しさを実感できる授業」について、理解を深め、授業研究をしていく。<br>・人と関わりあう授業構成・単元構成<br>　・授業中に人と関わりあう場面を設定し、学びの楽しさを実感できるようにする。<br>　・単元を通して、人と関わる場面を設定し、学びの楽しさを実感できるようにする。<br>・子どもの思いや考えを確認する。<br>　・一人ひとりが思いや考えを言えるように、発表の仕方を工夫する。<br>　・毎時間の終わりに子どもに振り返りを書かせることにより、子ども自身が考えを整理したり、担任が子どもの考えを把握したりする。<br>☆振り返りの視点　わがとも　わ一分かったこと<br>が一がんばったこと<br>と一友達の意見で参考になったこと<br>も一もっとやってみたいこと<br>※子ども自身が、思いや考えが変わっていっていることを意識できるように振り返りをする。 |
| 下半期 | ・学習状況調査の結果を生かし、授業改善に取り組んでいく。<br>・試行錯誤する場面をできるだけ授業で取り入れる。<br>・鴨居中ブロックでの研究授業を生かす。<br>・毎回の授業研で講師からの話を聞き、どのように改善していくか話し合い（推進委員会）、日々の授業に生かしていく。 |

## 豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 道徳教育<br>担当　道徳部　児童指導・人権 | ①道徳や横浜プログラム等を通して、自分や友達のよさに気付いたり、社会的スキルを身に付けたりして、自己肯定感や自己有用感を高めていく。②様々な「ひと・もの・こと」にかかわり、体験的な活動をすることを通して、自己有用感を高め、自他を認め合う心を育てる。 |

### 豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる児童生徒の実態
〇YPアンケート結果より
　本校では、アンケート実施後に、「学級居心地」「関わり」の数値が低い児童、「心配傾向」の項目の数値が高い児童をチェック表を用いて把握できるようにしているが、どの項目も相当数の児童が該当する。
　またほとんどの学年で、高自己評価群、低自己評価群に属する児童が多く、二極化している。

〇学校アンケート結果より
「学校は楽しい」「自身をもっていることや得意なことがある」「自分のやるべきことを最後までがんばれる」の項目で、児童の回答よりも教職員の回答の方が低い評価となっており、認識のずれが生じている。また、児童の回答が全体的に高評価となっているが、「すごくそう思う」「そう思う」が半分くらいの割合になっており、どちらかといえばそう思うと回答している児童が多いと感じる。

（2）これまでの学校の取組状況
〇縦割り活動、まちとの交流
　感染症予防対策をしながらの実施をした。例年より交流できなかったが、教え合ったり、関わったりすることができた。
〇横浜プログラム
　プログラムを実施することで、喜びや楽しみを感じることができた。

### 今年度の目標

〇自分への関心を高め、なりたい自分をイメージし、自分の良さに気付く。

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | ①主体的で対話的な道徳科の授業を目指して、児童が自分事として学習に取り組めるような授業づくりをする。<br>②年度初めにYPアンケートを実施し、子どもたちの現状や学級風土をつかむ。その結果をもとに、年間の横浜プログラム実施の計画を立て、活用する。 |
| 下半期 | ①ブロック研等を利用し、指導方法や教材活用方法を研究し、授業力を高める。<br>②上半期に引き続き、計画をもとに横浜プログラムを実施する。年内に2回目のYPアンケートを実施し、子どもたちや学級風土の変化を見取る。年度末に向けて、学級づくりや授業改善に生かす。 |

## 健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 健康教育<br>担当　健康・安全教育 | ①朝のラジオ体操や運動委員会による競歩、縄跳び等の活動を通して、肥満の改善、体力向上を図る。②学校保健委員会等の活動を通して、自分の健康状態を把握したり、感染症予防に取り組んだりして、健康を意識した生活を送るようにする。 |

### 健やかな体に関わる本校の状況

① コロナ禍に伴う肥満傾向の増加、体力低下。令和4年4月の身体計測では、全校児童における肥満児童の割合は9．8％、肥満傾向の児童の割合は17％、合計27％を占めている。

②令和3年は、歯みがき検査が6年間Aの児童が23．4％である一方、う歯が多数（1人10本以上）のある、低学年でも定期的に仕上げみがきがされていないなど口腔内の衛生への関心が家庭により差が見られる。

③運動量が減ったり、体育の授業で運動できる内容が限られたりしてしまった。令和3年の体力テストの結果では、ソフトボール投げ以外の項目で、3学年以上が横浜市の平均を下回っている。

（2）これまでの学校の取組状況
①学校医との連携、保健だよりでの保護者周知。
②毎年歯と口の衛生週間に歯みがきの大切さを保健だより、学校保健委員会、朝会等で周知。長期休みの健康カレンダーに歯みがきの項目を入れ、食後の歯みがきの定着を呼びかけた。歯科保健巡回指導を毎年実施し、事前の指導、口腔内の衛生状況を保護者通知した。（コロナ禍前まで昼の歯みがき、実際のブラッシング指導を実施）
※健やかな体に関わる学校の取組の状況　など

### 今年度の目標

〇自分自身の健康についての関心を高める。

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | 〇保健だより、健康手帳等で肥満傾向の増加、体力低下の状況について、児童・保護者に周知する。<br>〇状況に応じて、感染対策を行いながら朝のラジオ体操や運動委員会による競歩、縄跳び等の活動を通して、肥満の改善、運動習慣の定着を図り、ブロックで成果を共有する。<br>〇食育を含めた「基本的な生活習慣」の定着の重要性について、保健だよりや朝会を活用し、児童・保護者への周知を図る。 |
| 下半期 | 〇定期的な健康カレンダーやはみがきカレンダーを活用した健康教育を通じて児童の自分自身の健康への関心を高める。<br>〇学校保健委員会の活動を通して児童自身の健康や感染症予防に関する意識を高め、全校に発信できる機会を設定する。 |